



# 丹後地域 リハビリ通信

第11号

～うさぎのブランコ～

編集／発行

丹後地域リハビリテーション支援センター  
(公益財団法人 丹後中央病院リハビリテーション科内)〒627-8555 京丹後市峰山町杉谷158-1  
TEL 0772-62-8301 FAX 0772-62-8302  
e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com  
<http://www.tangohp.com/tangoshien.html>ホームページよりPDF形式でご覧いただ  
くことができます

## 平成24年度 実技研修会の報告

今回は初めて調理実習を行いました。栄養士や調理師、介護職など多くの職種の方に参加いただきました。

参加者は**53名**でした。

日 時 : 平成24年11月27日(火曜日)  
講演と実習: 「口から食べる」を支えよう  
～のみこみやすい食事とは～」  
講 師 : 公益財団法人 丹後中央病院 言語聴覚士  
中山 愛美子 氏  
公益財団法人 丹後中央病院 管理栄養士  
田中 奈美恵 氏



### 実習① 固形化補助食品の種類や食材の種類による違いを知ろう!

- お茶ゼリーと味噌汁ゼリーを4種類のゲル化剤を使用してつくり比較しました。
- 全粥を使って、ミキサー粥、とろみミキサー粥、とろみミキサー粥+酵素、ゼリー粥、ゼリー粥+酵素の5種類をつくり比較しました。
- ハンバーグゼリーを2種類のゲル化剤を使用してつくり比較しました。



### 実習② 加水の割合による物性の違いを知ろう!

- 魚1:だし汁1、魚1:だし汁2の2種類をつくり比較しました。

### 実習③ 油脂の付加による物性の違いを知ろう!

- 魚1:だし汁1のものに2種類の油脂(バター、マクトンパウダー)を付加したものを作り比較しました。

実習でつくったものをひとつずつ試食し、  
食感、味などを比較しました。



調理師さんや栄養士さんの手際の良さに感心し、  
また調理の大変さも実感できた実習でした。

### 試してみよう!! 実習

○あなたの職場でつかっているとろみ調整剤、濃度の違いによってどのようにとろみの付き方がかわるのかためしてみましょう。



○とろみ調整剤の種類によって、同じ濃度であってもとろみの付き方に差がでます。  
いろいろなとろみ調整剤を同じ濃度でとかして比べてみましょう。

いつも同じメーカーのものを、同じカップに、同じスプーンで。  
いつも同じとろみに仕上がる基準をもつことが大切です。



## 平成24年度 第2回事例検討会報告 ~伊根町のリハビリを考える会~

伊根町関係者を対象に、昨年に引き続き事例検討会を行いました。伊根町内の介護、福祉、医療、行政職を中心におよそ50名の方に参加頂きました。

日 時：平成24年10月30日(火曜日)

事例報告：「長寿苑における車椅子の現状と課題・今後の取り組みについて」

発表者：特別養護老人ホーム長寿苑 梅本 祥 氏

助言者：NPO丹後福祉応援団 理学療法士 松本 健史氏

講義・実技：「車いすに乗ってみよう!!」

講師：公益財団法人 丹後中央病院 理学療法士 松田 佳憲氏

実技協力：(株)ケアネット



長寿苑は平均介護度4.17で、入所者29名中25名が車椅子を使用しています。  
車椅子が同じサイズで個々の体格に合わず、姿勢がくずれてしまうなどの課題があります。  
長時間車椅子に座って頂くことが難しく、  
生活範囲の制限、生活の質の低下などが問題でした。



本人にあった  
モジュールタイプ  
の車椅子を使用して

傾くことなく足がしっかりと  
床につきました



箸を上手く使い、食器を  
口に持っていくのではなく、おかずを箸でつまみ  
口に持つていけるようになりました。  
水分もこぼさずのめるようになりました。

皆さん、前かがみは介護の突破口ですよ。活動的な姿をいろんな場面で  
作れるのは理学療法士ではなく、いつも接している介護職の皆さんです。



**モジュール型車椅子の体験****車いすに乗ってみよう!!**

利用者が求めているのは、利用者に必要なのは、どのような機能だろう?

シーティングの目的を明確にしたうえで、色々とためしてみましょう。

座面を前傾させ  
てみると体はどうなりますか?



各種モジュール型車椅子を持ち込んでいただき体験しました

**第5回 伊根町のリハビリを考える会 平成24年11月26日(月)16:30~18:00**

高齢化のすすむ、伊根町では、元気な町づくりの実現に向けて、毎月1回、関係者が集まって会議を開催しています。今回は与謝野町の理学療法士である小西隆博さんを、まねき、行政職としての理学療法士の役割について話をききました。

**こんな仕事をしています**

★与謝野町国民健康保険診療所での外来、訪問リハ

★与謝野町役場保健課での介護予防事業

「足からはじめる健康プロジェクト」

・足からつくる運動教室・サポーター養成講座

「おたっしゃ俱楽部」

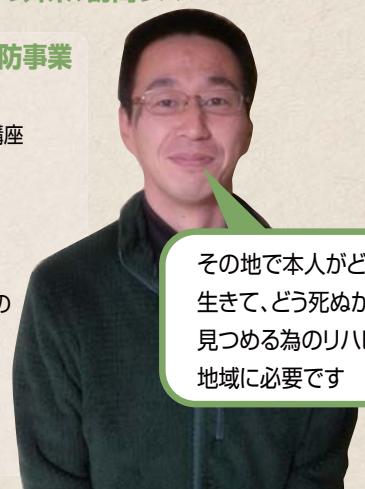
介護予防事業(転倒予防教室)

「リハビリ教室」

介護保険認定をうけていない、64歳までの中途障害をもつた方の社会リハビリの場

「私が主役」から「あなたが主役」

「あなたも主役」への仕かけづくり



その地で本人がどう  
生きて、どう死ぬかを見  
つめる為のリハビリが  
地域に必要です

## 平成24年度 第3回事例検討会の報告

実技研修会に引き続き「“口から食べる”を支えよう」というテーマで事例検討会を行いました。

**45名の方に参加頂きました。**

日 時：平成24年12月19日(水曜日)

講演と実習：「“口から食べる”を支えよう  
～摂食嚥下の評価と治療～」

講 師：京都府立与謝の海病院  
摂食・嚥下障害看護認定看護師

糸井 弘美 氏



口から食べることは、人間の生命活動における全身的な活動です。  
また、口から食べることは、心身の統合された調和の上に成り立っています。  
全身活動のどこかに支障をきたすと摂食・嚥下障害を引き起します。

### 嚥下評価のポイント

#### 呑み込みの力だけで評価しない

- 全身状態
- 意識レベル
- 日々の食事場面
- 摂食・嚥下機能
- 摂食量
- 認知機能
- 耐久性
- 介助方法
- セルフケア

#### 食べているときの観察…こんな症状ありませんか？

- |                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| ● 食べ物を見ても反応しない                  | ● 吞み込みが遅い       |
| ● 落ち着きがなく、集中して食べられない            | ● 吞み込むのに何回かかる   |
| ● 駆け込むようにたべる                    | ● 麻痺側の口の中に食物が残る |
| ● いつまでも咀嚼している                   | ● 飲食物の鼻からの逆流    |
| ● 食べる前、食べている最中、<br>食べてからの後のせき込み | ● 首の動きが悪い、硬い    |
|                                 | ● 食べるのに時間がかかる   |



飲み込みの音を聴診したり、口腔マッサージを実際に体験し学習しました。

### 参加者の感想より

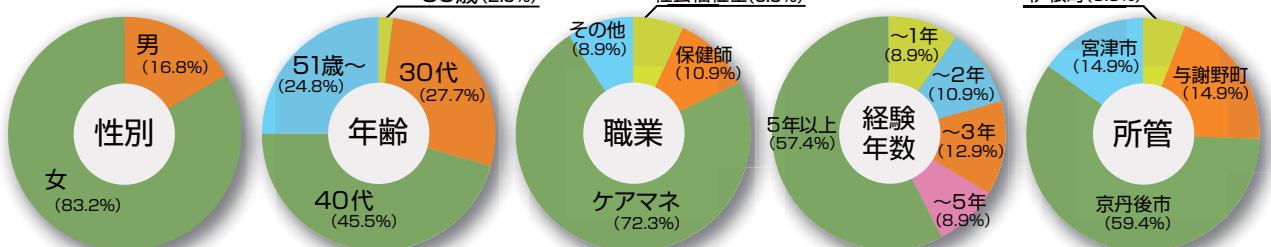
- ケアマネは直接援助や食事介助にかかわることはありませんが、いろいろな職種をチーム化して連携した援助が必要であり、ケアマネはその中心的になる役割であることを改めて実感しました。
- 短時間でも毎日の継続したケアと観察が大切だと思いました。
- 嚥下評価する際、のみこみの具合を見るだけでなく、その方の全体をいろんな角度からみることが大切だということがわかりました。

## 地域リハビリテーション支援センターに関する意識調査 ~結果報告~

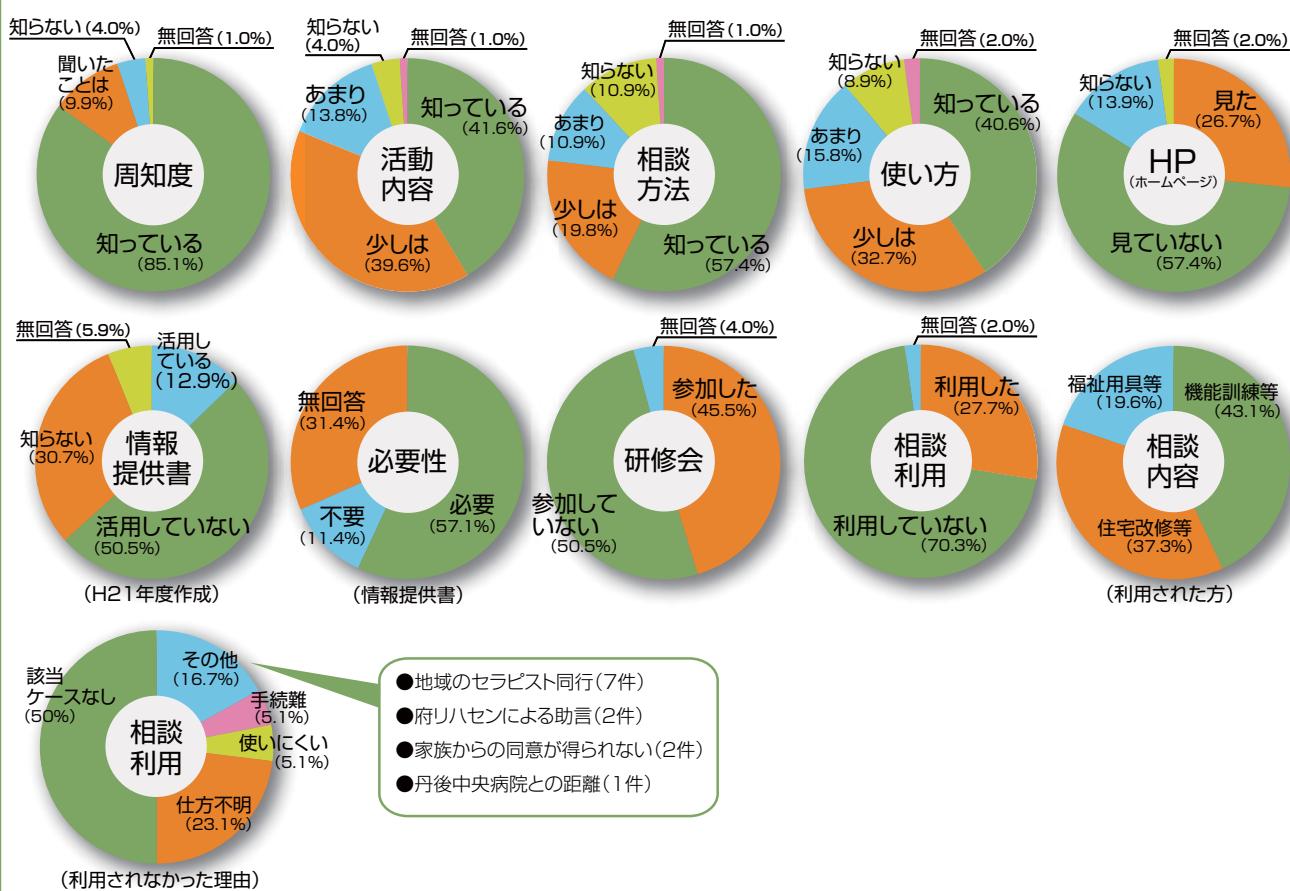
平成24年8月に実施しましたアンケートでは、皆様大変ご多忙な中ご協力いただきありがとうございました。遅くなりましたが、集計結果についてご報告させていただきます。

当センターとしましては、今回のアンケートから得られた内容を踏まえ、関連機関の皆様とより一層密な連携が図れるよう努めいきたいと考えております。引き続き当センターの運営等でお気づきの点等がございましたら、お気軽にお声をおかけください。

### ■属性について



### ■リハセンとの関り

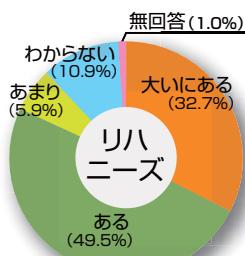


### コメント

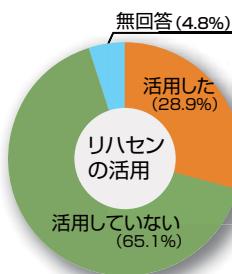
地域リハセンとしては広く周知いただけたかと思われます。しかし、リハセン利用に至っていない割合が高い点やご存知いただけてない方々に対し、引き続きコーディネーターが地域へ赴き、広報活動を継続していきたいと思います。

## 地域リハビリテーション支援センターに関する意識調査～結果報告～

### ■リハビリテーションに関するニーズ



- 「リハニーズとは?」(自由記載のみ)
- セラピストによる継続的関与
  - アドバイスの受け方を知りたい
  - 介護事業所との密な連携



「リハニーズはあるけど活用していない理由」

- 手続が煩雑
- 町にセラピストがない(2件)
- 該当ケースなし(9件)
- 単発利用では…。(4件)
- 需要と供給の不一致(継続的関与)
- 他院患者は利用できない(2)
- ケアマネ側の意識が低い
- 介護サービスと連動しない
- その他

### 研修会／事業所単位での勉強会への期待(自由記載より一部抜粋)

ポジショニング、集団体操、筋力維持、摂食・嚥下、腰痛予防、専門用語解説、保険点数とりハ制限、うつ病へのリハ、施設ケアマネへの勉強会等

### コメント

アンケート結果からは、担当されるケースにリハニーズが含まれながらも、リハセンによる問題解決(相談)へとは発展していない傾向が見出せました。この点について、今後も地域におけるリハ資質の向上(従事者支援)に向け、リハセン独自による支援や研修会の開催及び他機関とのネットワークの活用等を通じた貢献方法について検討していきたいと考えます。引き続きご指導いただけますよう宜しくお願い致します。

<実施期間> 平成24年8月9日～8月31日 <対象> 丹後圏域の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員等

<回収率> 41事業所 101枚／136枚 74%

### 知る！聞く！見る！体感リハビリ 丹後地域リハビリテーション実践交流会

# お気軽サミットin丹後

**平成25年3月7日(木) 午前10時30分～午後4時30分**

野田川わーくぱる

多目的ホール・第2会議室

場所：与謝郡 与謝野町字四辻 161 番地

電話：0772-42-7711

講 演

「相手の行動や能力を引き出すコミュニケーション」

講師：徳山 和宏（徳山オフィス代表 理学療法士）

実践報告・展示・相談コーナー

リハビリ川柳展示及び入選発表

詳細・申込書類はホームページをご覧ください。

2013  
3月7日



締切：平成25年2月28日(木)まで

リハビリ川柳

